

2015年3月期 決算説明資料

2015年5月13日

田淵電機株式会社(証券コード:6624)

Global Power-Solution Company



2015年3月期 業績概要

2015年3月期 業績・取り組みのポイント

- **太陽光発電用パワーコンディショナが業績を牽引**
- **特に、産業用低圧連系向けで大きく伸張し、10～100kW帯で54.4%の市場シェアを獲得***
- **海外拠点の活動・機能強化、グローバル展開へ基盤固め推進**

* 出典：(株)矢野経済研究所「新エネルギー用パワーコンディショナ市場2015」

連結業績概要

営業・経常利益は前年度比約 2 倍、営業利益率20%超を達成

単位：百万円

	2014年 3月期	2015年 3月期	増減	増減率
売上高	42,803	53,299	+10,496	+24.5%
営業利益	5,499	11,061	+5,561	+101.1%
経常利益	5,561	11,506	+5,944	+106.9%
当期純利益	4,100	7,695	+3,594	+87.7%

連結セグメント別業績概要

電源機器事業は好調のパワーコンディショナが大幅な増収増益要因
変成器事業は生産性・付加価値向上により増益

単位：百万円

	2014年3月期		2015年3月期		前年度比増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
電源機器	33,810	4,925	44,150	10,334	+10,340	+5,409
変成器	8,992	574	9,148	928	+156	+354
調整額	-	-	-	▲200	-	▲200
連結計	42,803	5,499	53,299	11,061	+10,496	+5,561

連結セグメント別売上高概要

電源機器事業

前年度比 +30.6%

- パワーコンディショナが年度を通して前年度を上回る推移
- 特に産業用では、三相9.9kWに加えてメガソーラ向け三相25kWでラインアップ拡充、大きくシェアを伸ばした

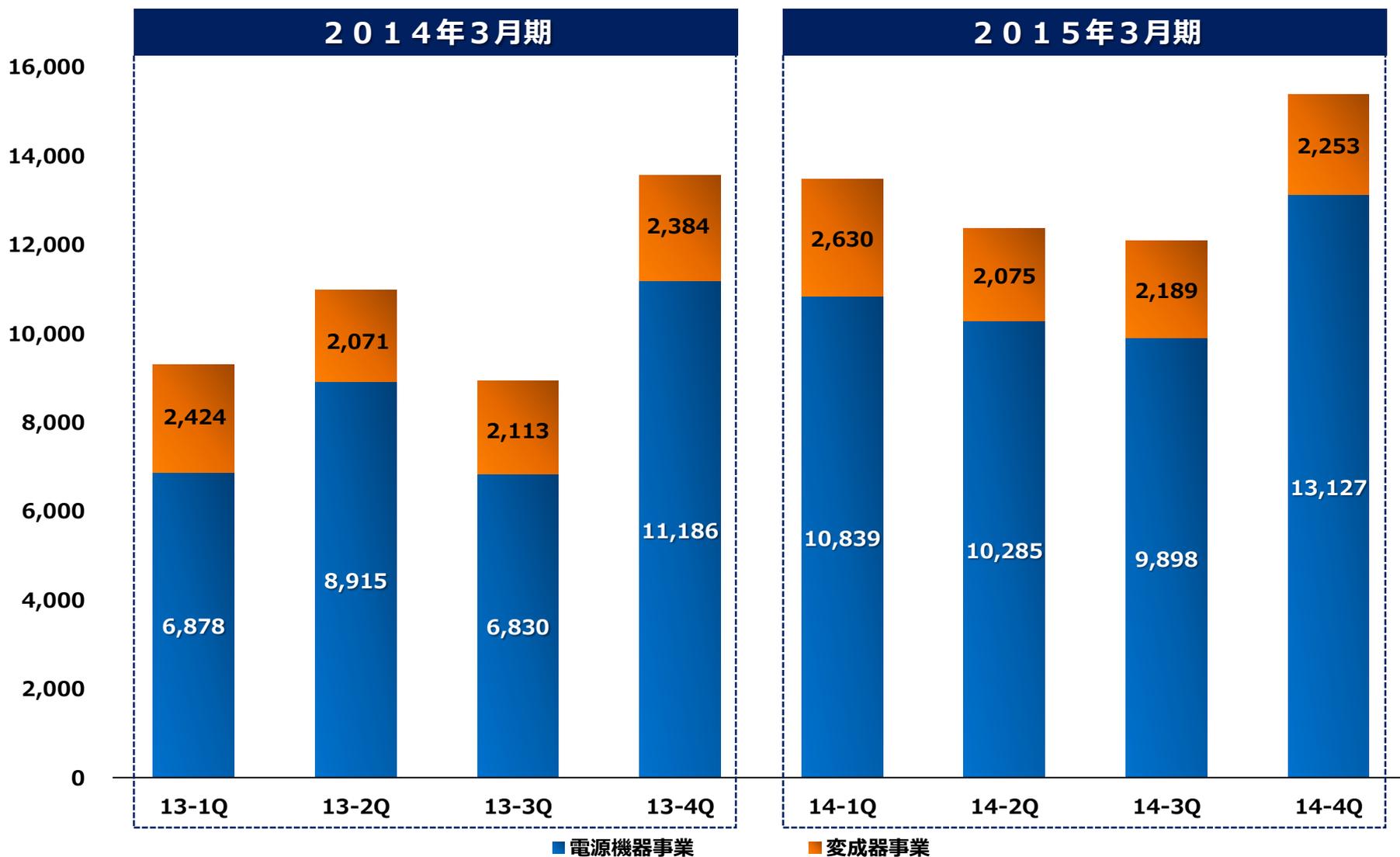
変成器事業

前年度比 + 1.7%

- 変成器事業全体では前年度比微増で着地
- 高周波トランス(主にベトナム生産)が年度を通して好調に推移した

連結セグメント別売上高四半期推移

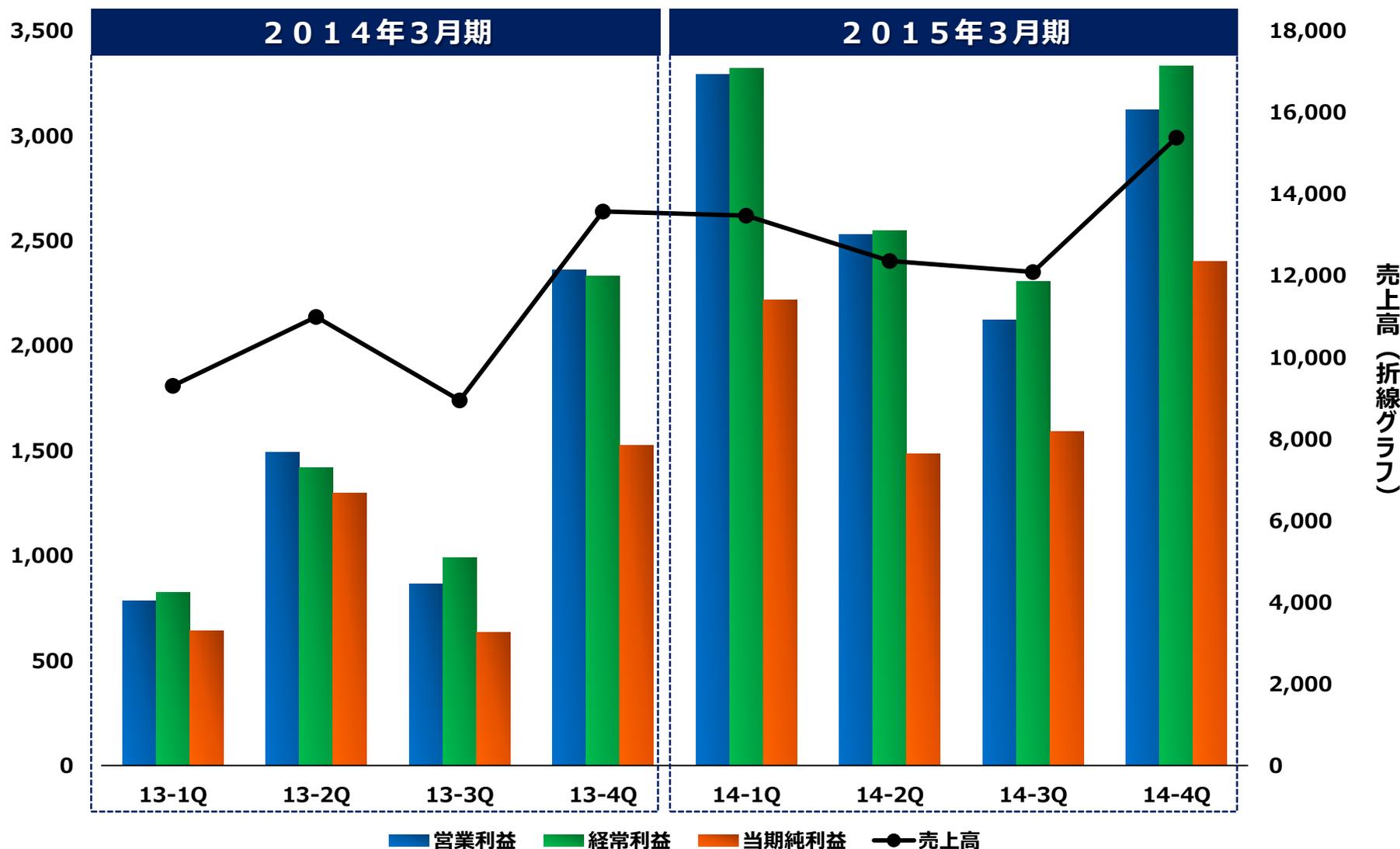
単位：百万円



連結業績四半期推移

単位：百万円

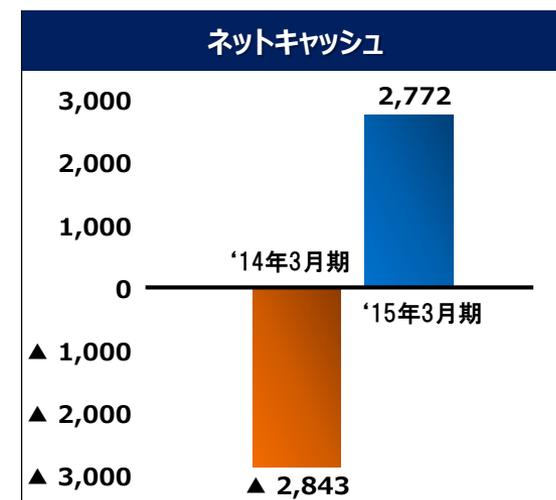
営業利益・経常利益・当期純利益（棒グラフ）



連結貸借対照表概要

単位：百万円

'14年3月末		'15年3月末		'14年3月末		'15年3月末	
現預金	2,296	6,868	仕入債務	6,943	8,085		
売上債権	9,080	15,408	短期有利子負債	2,915	2,090		
棚卸資産	4,717	5,229	その他（流動）	3,469	7,594		
その他（流動）	927	1,527	長期有利子負債	2,225	2,006		
固定資産合計	6,950	8,765	その他（固定）	1,542	3,365		
繰延資産	5	2	純資産	6,880	14,661		
資産計	23,977	37,802	負債・純資産計	23,977	37,802		



連結キャッシュ・フロー計算書概要

増益およびキャッシュ・フロー経営強化によりキャッシュ大幅増加
R&D等に積極投資する企業へ

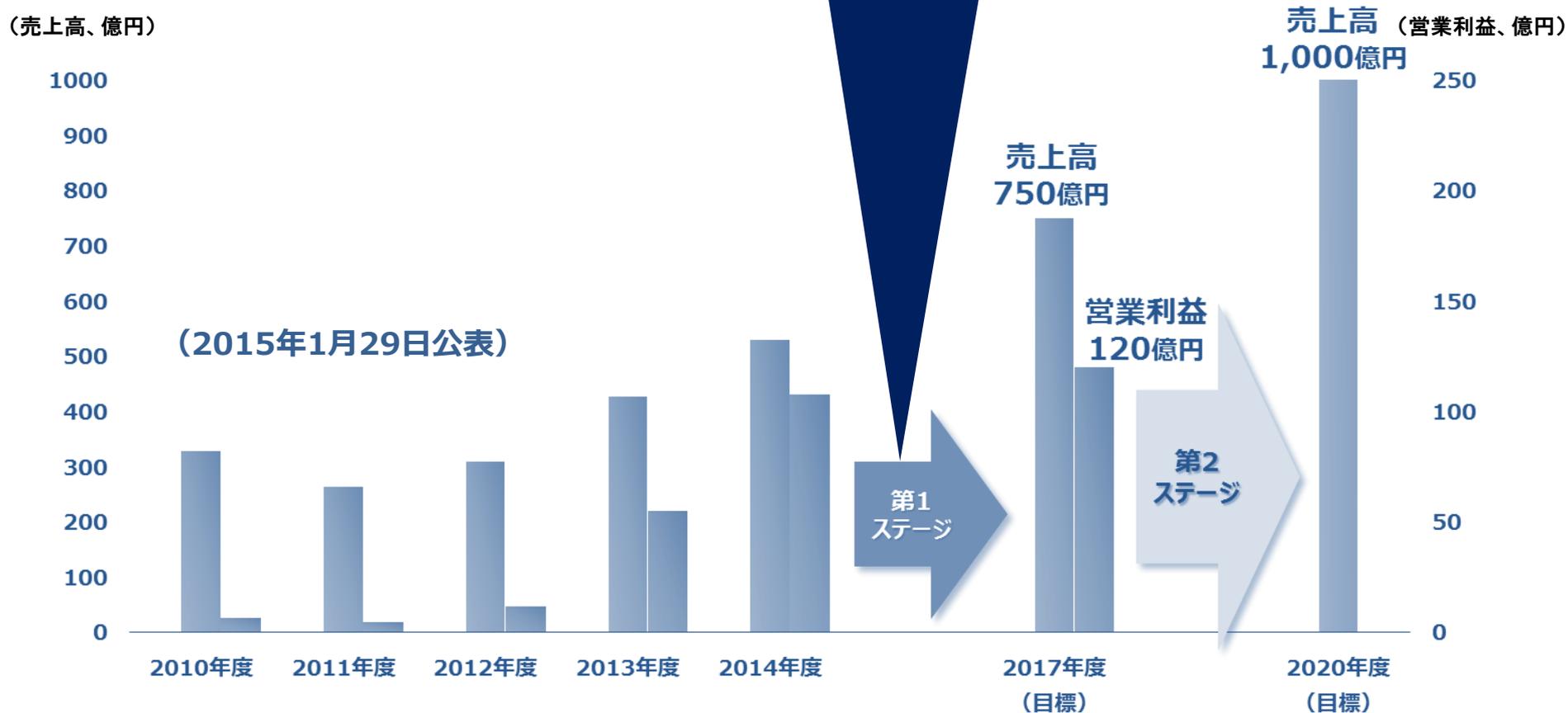
単位：百万円

	2014年 3月期	2015年 3月期	増減
営業活動によるCF	4,224	8,726	+4,502
投資活動によるCF	▲1,719	▲2,566	▲847
フリー・キャッシュ・フロー	2,505	6,160	+3,655
財務活動によるCF	▲2,037	▲1,815	+222
現預金に係る換算差額	41	227	+186
現預金増減額	508	4,572	+4,063
現預金期首残高	1,787	2,296	+508
現預金期末残高	2,296	6,868	+4,572

2016年3月期 見通し

2015年度（2016年3月期）の位置づけ

2015年度は新中期経営計画（MBP20）
第1ステージ 初年度



新中期経営計画 基本戦略

前基本戦略「SHIFT THE POWER」を継承・包含・発展

Global Power-Solution Company

グローバル・パワーソリューション・カンパニー

- 世界をフィールドとして捉え、人々のニーズ（シーズ）に対していち早く、ひと味ちがうソリューションを提供できる企業集団へ
- 世界の人々から感謝され、一目置かれる企業集団へ

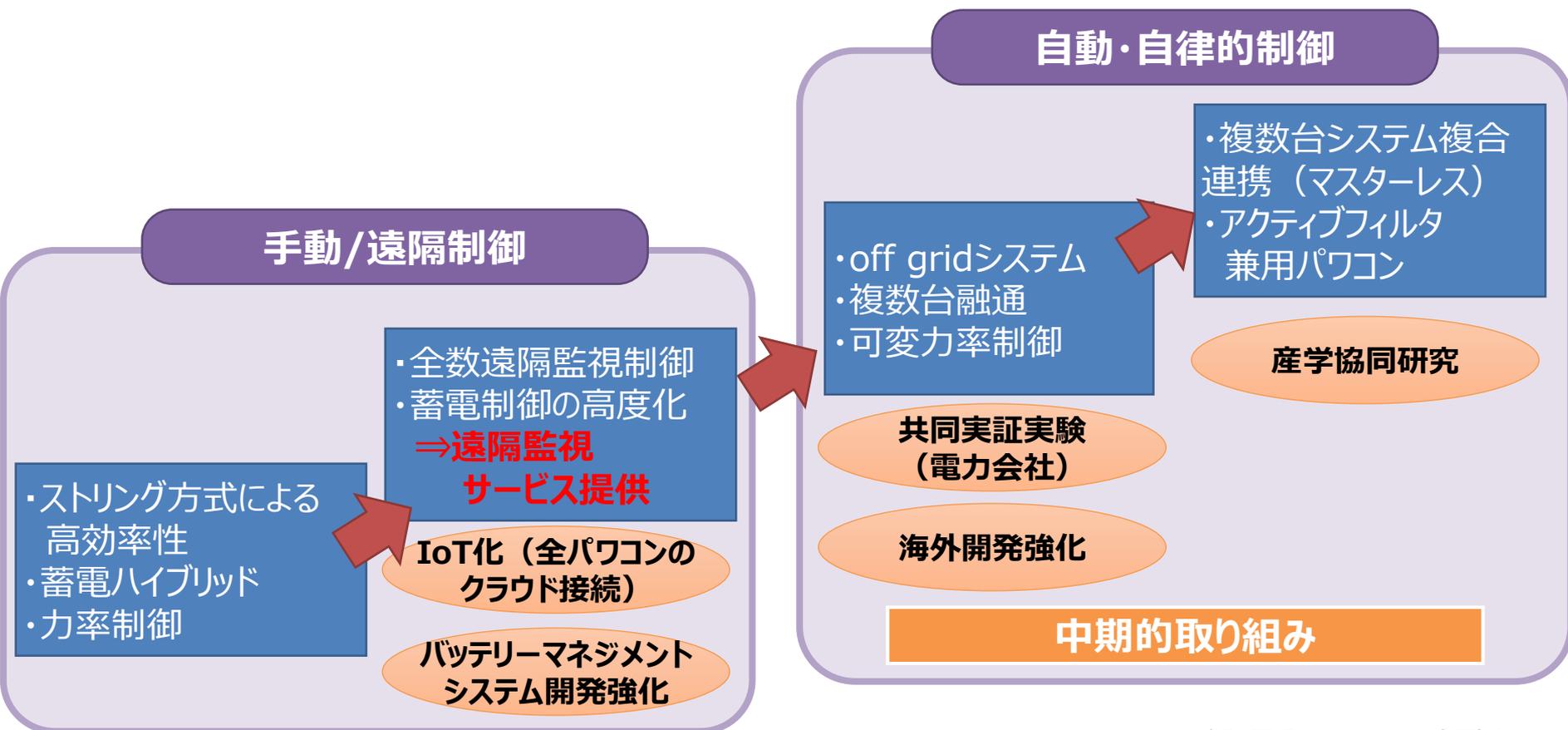
新中期経営計画 事業領域

先進パワーエレクトロニクス技術を志向した「特徴あるデバイス」と「ひと味ちがうパワーソリューションプロダクツ」を4つの分野へ展開



太陽光発電用パワーコンディショナの中期的展望

パワーコンディショナの位置づけは電力変換装置からIoT*・スマートセンサ装置へ移り、電力をより自律的・自動に制御する中核機器へ転換



*IoT:Internet of Things

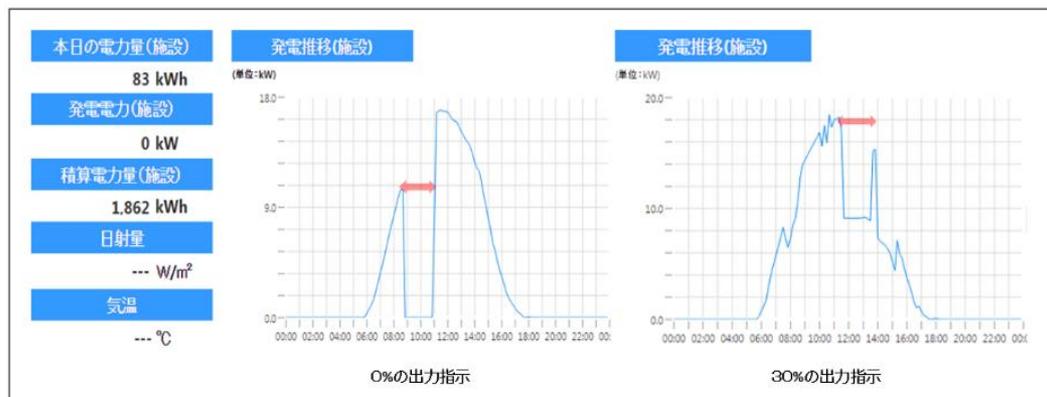
<予想> 2016年3月期 事業環境と重点施策

- 国内太陽光発電固定買取制度価格減額等により、新規設置申請は前年度に比べ落ち込むものと予想。しかし、申請済み未着工残案件繰越しもあり、全体的には2016年3月期の国内太陽光発電市場規模は2015年3月期対比で同水準の予想。蓄電ハイブリッドシステムによるピークカット/シフトや、遠隔出力制御への先行対応・パワーコンディショナのIoT機器化によるソリューションサービスへの展開などの付加価値提供で競争優位性を高めていく。
- 世界市場においても、再生可能エネルギーの最大活用、蓄電池などを使用したエネルギーマネジメントへの需要は益々大きくなる見通しであり、特に北米で伸張を予想。2016年3月期は蓄電ハイブリッドシステム等を投入し北米市場へ本格進出する。さらに北米仕様で構築された製品技術をもって中国・アジア・他新興国・途上国への横展開を狙う。

遠隔出力制御・エネテラスクラウドによる遠隔監視サービス

- 省令改正後にいち早く対応し、全ラインナップで対応済み新製品の販売を開始
- エネテラスクラウドによる双方向通信機能による時間と制御率*への対応で電力会社の多様な方針にも即応可能
 - *当社発電所で実証実験済み
時間単位制御はリモコンもしくはマスターボックスの併用が必要
- 通信回線の無い発電所にも対応可能な3G通信パッケージの提供

<当社発電所設備の出力制御システムの実証画面>



クラウド上で出力制御スケジュールを設定



2015/3/30(月) 08:30 から 11:00 まで 0% で制御

更に、エネテラスクラウドを活用した遠隔監視サービスの提供(予定)

- ・遠隔監視による発電見守りサービス(異常早期検知)
- ・ストリングス単位での発電状態確認可能(外部計測装置併用時)
- ・オンサイト保守サービスの提供

蓄電ハイブリッドシステム「EIBS (アイビス)」

2015年7月より販売開始

- 太陽光発電システムと蓄電装置を一体化した画期的な製品で、5.5kWの太陽光発電システムと10.0kWhの蓄電システムを融合
- 3種類の運転モード(ノーマルモード・節エネモード・蓄電モード)でライフスタイルに合わせた運転が可能
- 停電時も蓄電池からの放電で電気機器に最大2.0kVAの電力安定供給が可能、さらに自立出力を分電盤に繋ぐことにより複数の機器をコンセントのつなぎ替えることなく使用することが可能



北米市場への本格進出

北米仕様 E I B S の U L / C S A 規格認証取得

- 北米市場での販売において取得が必須であるUL/CSA規格認証を2015年4月に取得
- 日系メーカーの中で当社はいち早い認証取得を実現
- 太陽光発電 + 蓄電池充放電を一台の機器で行う、買電電気を充電できる、リチウムイオン蓄電池を採用している点など総合的に高スペックなシステムとして差別化を図る



<予想> 連結業績

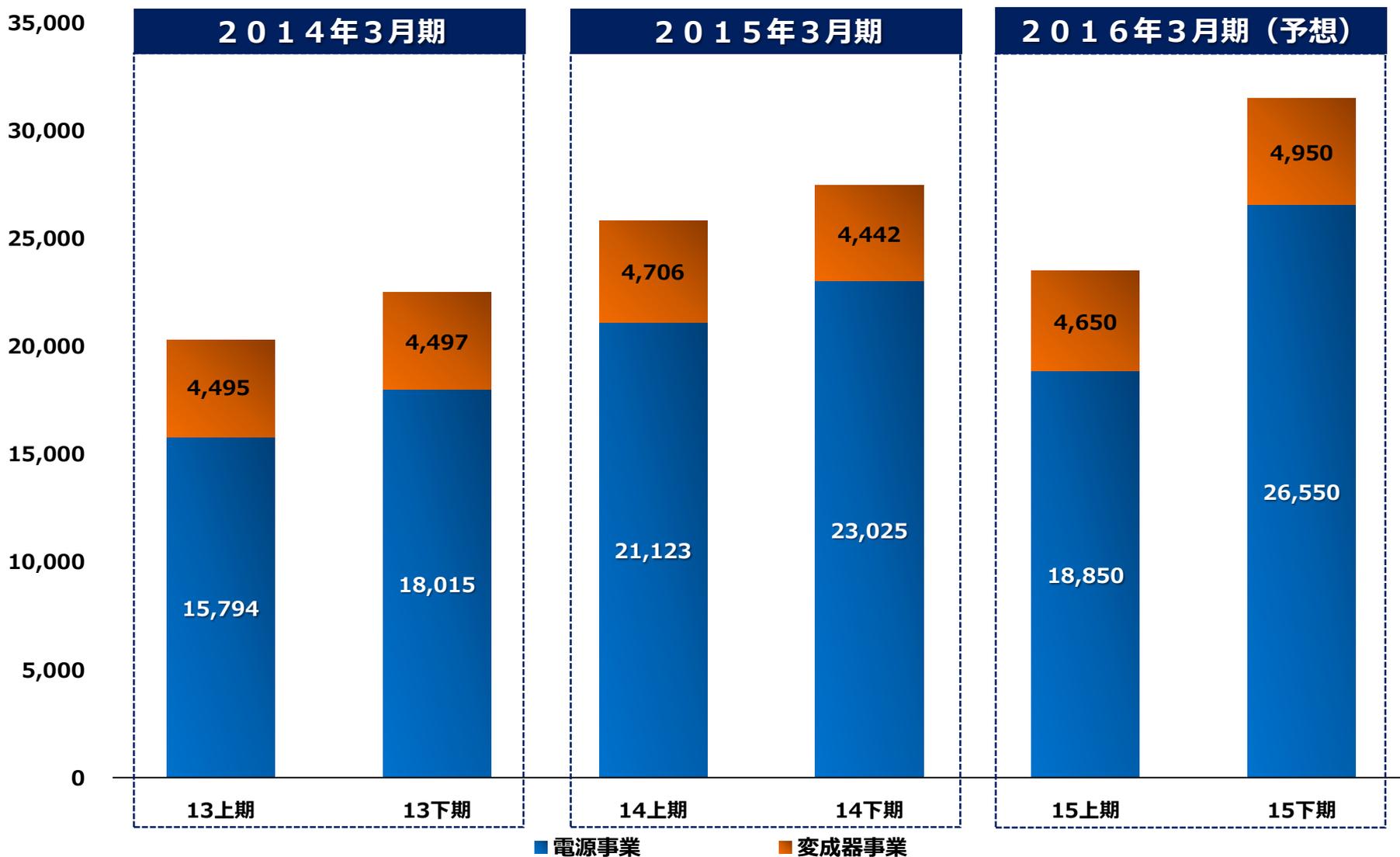
単位：百万円

	2015年 3月期	2016年3月期		
		上期	下期	通期
売上高	53,299	23,500	31,500	55,000
営業利益	11,061	3,500	5,000	8,500
営業利益率	20.8%	14.9%	15.9%	15.5%
経常利益	11,506	3,400	4,900	8,300
当期利益	7,695	2,200	3,300	5,500
配当	年間計 13円※	中間 8円	期末 8円	年間計 16円

※記念配当3円を含む

注) 予想の前提となる為替レートは1ドル115円です

<予想> 連結商品セグメント別売上高推移



TABUCHI ELECTRIC

※当資料に記載されている、当社又はグループに関する見通し、方針、戦略等は、現時点での入手可能な情報に基づき、合理的と判断した前提のもと予測したものです。実際の業績は今後起こりうる様々な要因によって異なることがあるということをご理解ください。